

長野県主伐・再造林推進ガイドライン（案）について

林 務 部

1 策定の趣旨

主伐・再造林の推進は、持続的な林業経営の促進や 2050 ゼロカーボンの取組に貢献する一方で、実施方法によっては、誤伐、林地崩壊・土砂流出、景観の変化に伴う住民の不安等につながる可能性もあり、林業という産業自体の社会的信用に影響することも考えられる。

このため、林業事業者等が主伐・再造林に取り組むべき「法令上」「環境配慮上」「施業上」の留意点や実施方法を整理したガイドラインを策定し、ガイドラインに沿った主伐・再造林を推進する。

2 ガイドライン（案）の特徴

- (1) 主伐を実施する上での技術的視点や防災の観点に加え、景観・生態系への配慮の観点についても、専門家の知見等を取り入れて整理
- (2) チェックシートを活用し、事業者等が主体的にPDCAサイクルに沿って主伐・再造林に取り組めるような構成

[チェックシートのイメージ]

| P-D-C-A | | 項目 | 番号 | チェック項目 | はい | いいえ | 該当無 | いいえの場合の対応 |
|--|------------|-------------------------------------|----|--|----|-----|-----|-----------|
| I | 計画 Plan | 1 主伐・再造林は「林業経営に適した森林」で優先的に実施しましょう。 | ① | 「木材生産機能維持」区域が原則、「時に効率的な施業が可能な森林」優先 | | | | |
| | | | ② | 一伐区は概ね5haまでを推奨、超える場合は、伐区の分散、複数年実施、存残帯等設置 | | | | |
| | | | ③ | 更新困難な成樹高（1,500m以上）地やササ密生地は原則として見送る | | | | |
| | | | ④ | 人工林の主伐を計画する場合は、具体的な更新計画を作成 | | | | |
| | | 2 災害リスクを確認しましょう。 | ① | 過去の災害履歴等を確認し、災害リスクの高い森林での主伐を避ける | | | | |
| | | | ② | CS立体図等で崩壊リスクが高い地形の有無等を事前に確認 | | | | |
| 3 火山噴出の発生状況も把握し崩壊防止の備えや更新が可能な箇所を確認しましょう。 | ① | 松くい虫被害発生林では、被害拡大防止に配慮 | | | | | | |
| | ② | 再造林後の崩壊害が想定される場合、費用対効果を含む適切な被害対策を検討 | | | | | | |
| 4 景観への影響を確認しましょう。 | ① | 景勝地や主要道路からの眺望に配慮した施業方法を検討 | | | | | | |
| | ② | 写真を撮影するなどし、主伐後の景観の変化をシミュレーション | | | | | | |
| 5 貴重な動植物等を確認しましょう。 | ① | 貴重な動植物の生息地や埋蔵文化財がある場合は保護または記録 | | | | | | |
| 6 森林所有者の同意は確実に取りましょう。 | ① | 森林所有者全員の書面による同意と契約を締結するとともに、所有界を確認 | | | | | | |
| | ② | 森林の土地を譲渡した場合、届け出が必要 | | | | | | |
| | ③ | 現場条件に適合した作業システムと、必要最低限の林内路網 | | | | | | |
| | ④ | 伐採と造林の一貫作業システムの推進による効率化 | | | | | | |
| | ⑤ | 伐採事業者と造林事業者が異なる場合に連携 | | | | | | |

- (3) ガイドラインに沿った主伐・再造林の実施にあたり、県が事業者等に対して行う技術面等での支援について記載

[主な記載内容]

- ・ 災害リスクの事前確認に必要な CS 立体図等のデジタル技術の活用
- ・ 様々なツールを活用したシミュレーションなど景観面での影響の視覚化
- ・ 架線技術者の養成や事業者自ら行う研修会の支援

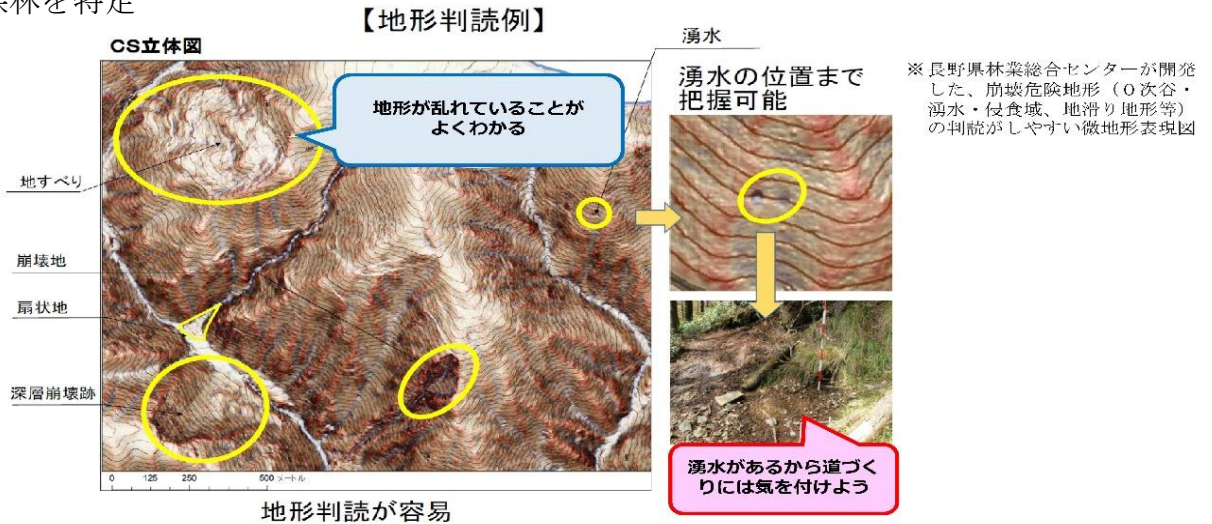
3 ガイドライン（案）の概要

主伐・再造林を実施する場所や災害リスクの確認、景観への影響の確認、作業方法の決定、地域の理解と協力などに関する留意点について、施業の流れに沿って記載

記載内容の例

○ 災害リスクの確認

主伐や路網等の作設が新たな災害のきっかけにならないよう、現地調査とともに長野県林業総合センターが開発したCS立体図等を活用し、地形から読み取れる「森林に潜む崩壊危険地」を事前に把握し、路網等の開設や主伐を回避すべき森林を特定



○ 景観への影響の確認

主伐区域の設定や路網の作設等の検討に当たって、事前に周辺道路や多くの人が集まる場所（主要な駅等）から写真を撮影するなどし、主伐実施後の景観についてシミュレーションし、確認

シミュレーションのイメージ

伐採前に人が集まる場所から写真撮影



伐採後のイメージをシミュレーションし確認



主伐後の更新のイメージ



植栽した樹木は、概ね15年で10m程度に成長

○ 地域の理解と協力

事業実施前に、回覧板や看板、必要に応じて地元説明会の開催などにより、関係する住民に主伐・再生林の趣旨や施業内容などについて周知

地域へお知らせする回覧板等のイメージ

ご理解・ご協力をよろしくお願いします

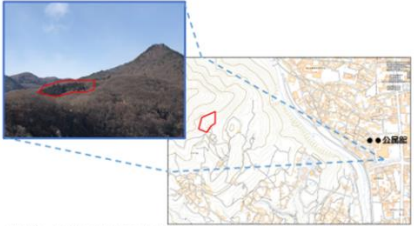
持続的な林業経営に向け、**伐採と植栽を行います。**

- ✓ 長野県主伐・再生林推進ガイドラインに沿って、災害リスクの小さい森林で薪割や生物多様性に配慮しながら作業するように努めます。
- ✓ 森林への作業車の出入、伐採・機械類の作業音、運材トラックの通行について、ご理解ご協力をよろしくお願いします。

期間
令和●年●月●日から
令和●年●月●日まで

実施概要
主伐 ●ha
森林作業道作設 ●m
植栽 カラマツ ●ha

実施箇所
●●集落内にある、以下の地図、写真の赤線内で実施します。
写真は、●●集落からの遠景です。



植栽後、しばらくは植えた木が小さくて目立ちませんが、将来は木が育ち森林の状態へと戻ります。

事業実施責任者：㈱●●林業 長野 大樹 連絡先000-0000-0000

林道入口等へ設置する看板のイメージ

ご理解・ご協力をお願いします

長野県主伐・再生林推進ガイドラインに沿って
持続的な林業経営に向けた
伐採と植栽を行っています。

期間
令和○○年○○月○○日から
令和○○年○○月○○日まで



持続的な林業経営の実施
植栽後、しばらくは植えた木が小さくて目立ちませんが、将来は木が育ち森林の状態へと戻ります。

実施事業者：㈱●●林業
連絡先：0000-00-0000

○ 林内路網の作設手法（切土・盛土と適切な法面処理）

林内路網施工のイメージ

原則 1.5m以内

段切


30cm毎に十分に転圧

表土 心土

視覚的インパクトを軽減するため、法面の早期緑化を図る表土積工を施工

良い例（表土積工1年後）

悪い例（盛りこぼし）


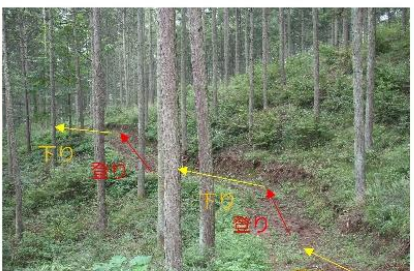


路網に向かって転圧

重機の安定を確保しながら安全に行う（11トン級なら5回以上転圧）

波型線形のイメージ

登り 下り 登り

4 今後の予定

- 3月下旬 有識者や林業事業体、県民の皆様からこれまで頂いたご意見を踏まえたうえでガイドラインを決定し、ホームページで公表
- 4月以降 林業事業体等がガイドラインに沿って主伐・再生林に取り組めるよう、林業普及指導員等による普及啓発や技術指導を実施

※ ガイドラインの内容は、技術の進歩や新たな課題に対応するため、公表後も必要に応じて見直すこととする。